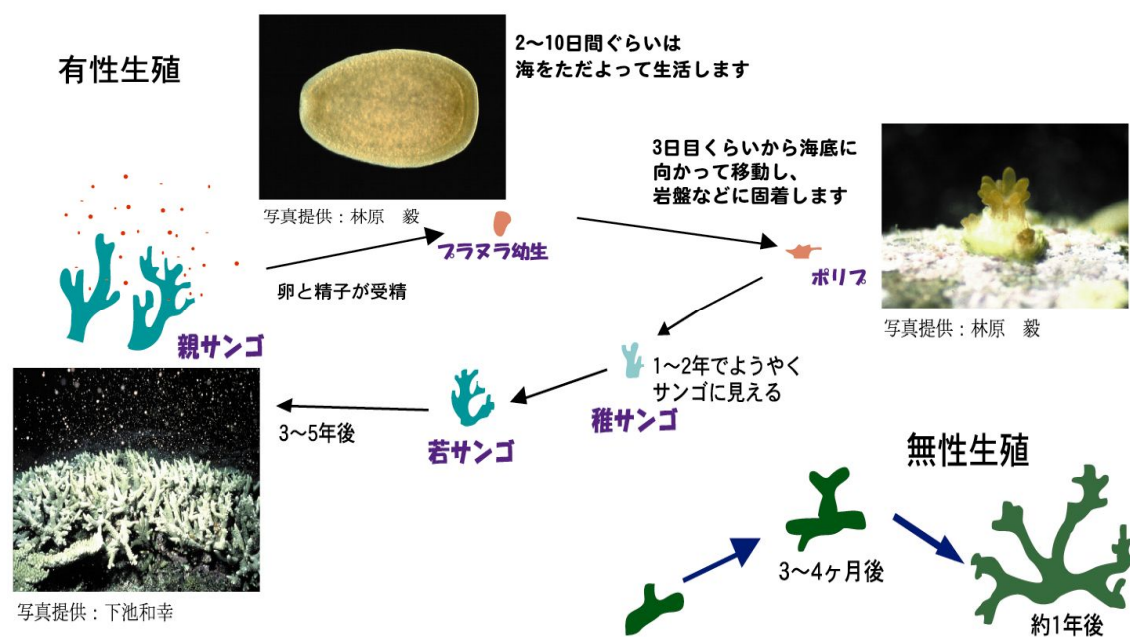


ページ	用語	読み方	解説
1	刺胞動物	シホウドウブツ	餌を捕ったり攻撃したりするのに用いる刺胞という細胞器官をもった動物で、サンゴ、クラゲ、イソギンチャク、ヒドラなどが含まれる。
1	褐虫藻	カッチュウソウ	サンゴに共生する直径10ミクロン程の単細胞の渦鞭毛藻の一種。光合成を行ってサンゴに酸素と栄養を供給している。
1	石灰質	セツカイシツ	サンゴの骨格や貝殻などの主成分になっている炭酸カルシウム(CaCO <sub>3</sub> )。
4	裾礁	キョショウ	島の周りを縁取るようにして発達するサンゴ礁の形態で、日本の多くのサンゴ礁はこれに当たる。
4	堡礁	ホショウ	島から遠く離れ一定の距離を置いて発達するサンゴ礁で、島との間に深い水域がある。日本では石西礁湖のみで見られる。
4	種多様性	シュタヨウセイ	種類の多さや複雑さなどの性質。
6	礁縁	ショウエン	外礁の外側礁原でサンゴ礁の縁辺部。
7	群集構造	グンシュウコウゾウ	群集とは種の組成をもとにして分けられた植物群落の分類単位で、群集構造は群集の種組成を意味する。本来は植物に用いられる用語だが、分布のしかたが植物と似ているサンゴにも流用されている。
7	白化	ハツカ	サンゴやシャコガイなどは体内に褐虫藻が共生しており、光合成を行う褐虫藻から酸素と栄養をもらって生きている。高水温などが原因で体から茶色の褐虫藻が抜け出した結果白くなる現象を白化と言う。サンゴなどは白化が長く続くと死んでしまう。
7	アーサー	アーサー	沖縄の方言で、和名はヒトエグサという緑藻。春先にサンゴ礁の浅瀬に繁茂するアーサーをおばあ達が採る光景は、昔から沖縄の島々の風物詩になっている。採れたアーサーはお汁などに入れて食べられる。
8	シルト	シルト	粘土よりも粗粒、砂よりも細粒の粒子で、粒径は1/16～1/256mm。
9	資源保護	シゲンホゴ	自然から得られる産業の基となる要素(地下資源・水資源・海洋資源・水産資源・人的資源・観光資源など)を、永く利用できるように守っていくこと。
9	種苗放流	シュビョウホウリュウ	卵から育てた水産対象種の稚仔を種苗といい、この種苗を放流すること。
9	栽培漁業	サイバイギョギョウ	水産対象種の種苗を人の手でつくり育てて放流し、成長したものを漁獲する漁業。
9	浜下り	ハマウリ	旧暦三月三日の春の大潮の日に浜に出て潮干狩などを楽しむ沖縄の伝統的行事。
10	スキューバ、スクーバ	スキューバ	SCUBA (self-contained underwater breathing apparatus) 自給気式潜水装置の略称。圧搾空気をつめたボンベを背負い、圧力自動調節器を通してマウスピースから呼吸するもの。
10	フーカー	フーカー	船上のコンプレッサーからホースを通して水中に圧搾空気を送り、マウスピースから呼吸する潜水装置。スキューバより長時間の潜水が可能。
12	エコツアー	エコツアー	森歩き、山登り、沢登り、カヌー、ダイビングなど、自然にやさしい活動を行いながら、自然を学び楽しむ体験型ツアー。
16	共生関係	キョウセイカンケイ	異種の生物が共存する関係。普通、二種の生物が互いに利益を交換して生活する相利共生をさす。
18	国頭マーヅ	クニガミマーヅ	沖縄島北部、久米島、石垣島、西表島に分布し、砂岩、泥岩、千枚岩、砂礫層などを母材とする赤黄色土壌。酸性を示す。
18	沖積土壌	チュウセキドジョウ	河川によって運ばれてきた土砂が堆積してできた土壌。
18	島尻マーヅ	シマジリマーヅ	主に沖縄島南部、宮古島に分布し、琉球石灰岩を母材とする暗赤色土壌。アルカリ性を示す。
18	自然侵食	シゼンシンシヨク	地表が自然現象により削り取られること。雨食・河食・雪食・氷食・風食・波食などがある。
18	合併浄化槽	ガツペイジヨウカソウ	尿尿(しによ)と生活雑排水をあわせて処理する浄化槽。尿尿のみを処理するものは単独浄化槽。

ページ	用語	読み方	解説
18	栄養塩	エイヨウエン	海水や陸水に含まれ、植物プランクトンや藻類の栄養になる物質。硝酸塩・亜硝酸塩・アンモニウム塩・リン酸塩・ケイ酸塩など。栄養塩が過多になると、植物プランクトンや藻類の異常発生が起こり、生態系のバランスが崩れる。また、栄養塩過多はサンゴの骨格形成を阻害することも知られている。
19	黒帯病	クロオビビョウ	Black Band Disease。1970年代から世界の造礁サンゴで見られるようになった病気。原核生物のシアノバクテリアが原因菌で、これに硫酸還元菌や硫化物酸化菌が加わったマット状の黒い帯となって組織の壊死が広がっていく。
19	白痘	ハクトウ	White Pox。1996年以降、カリブ海を代表する枝状のサンゴ ( <i>Acropora palmata</i> ) の90%を殺し、絶滅危惧種に追いやった恐るべき病気。最近、人畜の腸内細菌であるセラチア菌が原因菌であることが特定されたため、尿尿排水の影響が問題視されている。
19	扁形動物吸虫類	ヘンケイドウブ ツキウチュウ ウルイ	扁形動物門は左右相称動物の中で体制が最も簡単な動物群で、背腹に平たく、楕円形や細長い形をしている。このうち吸虫類は動物に寄生して血液等を吸って生活するグループ。
20	バイオテクノロジー	バイオテクノロジー	生物を工学的見地から研究し、応用する技術。近年は特に、遺伝子組み換え・細胞融合などの技術を利用して品種改良を行い、医薬品・食糧などの生産や環境の浄化などに応用する技術をさす。
21	上布の海晒し	ジョウフノウミ ザラシ	苧麻(ちよま)の繊維を細く紡いだ糸で織った上質の麻繊維の上布を作る過程で海に晒すこと。八重山に伝わる伝統技術。
22	イノー	イノー	沖縄の方言で、サンゴ礁の礁原に発達する礁池や内湾などの静穏な浅い水域のこと。
29	沖縄県オニヒデ対策会議	オキナワケン オニヒデタイ サクカイギ	沖縄県自然保護課が事務局になり2002年に発足したオニヒデ対策を目的とした会議。発生状況の調査、簡易調査マニュアル、駆除戦略などを環境省、市町村、関係機関からなるメンバーと検討する。
29	八重山地区オニヒデ対策連絡会議	ヤエヤマチク オニヒデタイ サクレンラクカ イギ	八重山地域におけるオニヒデの発生状況等の情報を共有するとともに、地域としての対策を検討するために開催されている会議。八重山漁業協同組合、八重山ダイビング協会、沖縄県、沖縄県八重山支庁、石垣市、竹富町、西海区水産研究所、県水産試験場八重山支場、沖縄県環境科学センター、WWF ジャパンサンゴ礁研究センター、日本ウミガメ協議会、(有)海游、八重山環境ネットワークなどが参加。
30	勾配修正	コウバイシュウ セイ	畑からの土砂流出を防ぐため、畑の勾配を緩やかにすること。
35	SPSS	エスピーエス エス	底質中懸濁物質含量 (contents of Suspended Particles in Sea Sediment) の略称。海域の赤土汚染をモニタリングする簡便な手法として1985年に沖縄県衛生環境研究所で開発された。海底から土砂を採取し、容器内で懸濁させた時の透視度から懸濁物質(赤土等)の量を推測する。
35	ワークショップ	ワークショップ	ファシリテーターと呼ばれる役割の人が、参加者が自発的に作業をする環境を整え、参加者全員による検討会議。住民参加型まちづくりによく用いられている。
35	加入量	カニューリョウ	生物群集に対して新たに加わる生物の量。
37	GIS	ジーアイエス	Geographic Information System。地理情報システム。地理的なさまざまな情報に関連づけなどの処理を行い、データ化された地図上として視覚的に表示するシステム。
49	グリーンベルト	グリーンベルト	土砂流出を防ぐため、畑の周囲に植えられた植物の帯。石垣島では月桃(沖縄の島々の山野に自生する、ショウガ科の多年草)を植えている。
59	被度	ヒド	サンゴなどの固着生物が基質を被覆する面積の割合。
60	無性生殖(法)	ムセイセイショク(ホウ)	配偶子を用いずに、子孫を増やす営み。無性生殖によってできる個体は、遺伝子組成が等しいクローンである。※下の図も参照のこと。
60	有性生殖(法)	ユウセイセイショク(ホウ)	卵と精子などの配偶子を用いて、子孫を生産すること。有性生殖によってできる個体は、新たな遺伝子組成になる。 ※下の図も参照のこと。

ページ	用語	読み方	解説
61	インタープリテーション	インタープリテーション	一般的には「通訳」のことを言うが、ここでは、自然と人間のあいだの通訳、すなわち、自然の発するメッセージを分かりやすく人々に伝え、自然とのふれあいを通じて喜びや感動を分かちあおうとする「解説活動」のことを指す。
67	離礁	リショウ	内湾的環境の浅海域に発達する大小様々な形状の小さな斑状のサンゴ礁。
68	活性状況	カッセイジウキョウ	機能が出現したり、効率が向上したりすること。また、反応や応答をする能力。サンゴの場合、成長量などの活性状況から健康状態を判断できる。
72	ICRI	イクリ	国際サンゴ礁イニシアティブ(International Coral Reef Initiative)の略称。1994年に発足した、サンゴ礁の保全と持続可能な利用に関する包括的な国際的枠組み。1)沿岸管理、2)能力養成、3)研究・モニタリング、4)再検討が活動の4本柱となっている。1995年にフィリピンでICRI会合が開催され、「行動の呼びかけ」「行動の枠組み」を採択。その後の活動の指針とする。事務局と企画調整委員会(ICRI-CPC:ICRI Coordination Planning Committee)で運営されている。2005年から2007年は、日本とパラオが共同事務局を担当。
72	GCRMN	ジーシーアールエムエヌ	地球規模サンゴ礁モニタリングネットワーク(Global Coral Reef Monitoring Network)の略称。ICRIのプログラムの一つであり、サンゴ礁モニタリングを実施する人々や政府機関、研究機関、NGO及びサンゴ礁の利用者によるネットワークである。持続的な利用のためのサンゴ礁のモニタリングを推進している。IOC-UNESCO、IUCN、世界銀行、UNEPの4つの国際機関からの資金提供を受け、科学技術諮問委員会(STAC)の指導のもとに戦略計画にのっとり運営される。1998年以来、地球規模のネットワークを通じて、2年に一回、世界のサンゴ礁の現状報告を発行している。
72	GPS	ジーピーエス	Global Positioning System。全地球無線測位システム。多数の衛星から発射された時刻信号の電波の到達時間などから、地球上の電波受信者の位置を三次元測位するシステム。カーナビゲーションシステムなどに利用されている。

## サンゴの一生



『八重山のサンゴ礁』(環境省自然環境局)より抜粋